

報告タイトル

人事制度の変遷から見る中国地方法院と地方政府との関係

The Relationship between China Local Courts and the Government in the Transition of the Personnel System

氏名(所属)

丁優駿(一橋大学院)

Yongjun Ding (Graduate School, Hitotsubashi University)

要旨(800字程度)

始皇帝の「郡県制」から二千二百年以来、中国の統治者にとって、最も悩ましいことは中央・地方問題である。中国の統治者が地方の指導者の行動を把握・制御するために、様々な政策を打ち出したが、いずれも効果的とは言い難く、導入当初に効果が出た場合であっても、その政策が新たな問題を生み、新たな中央・地方問題に転生してしまうのである。

言うまでもなく、現代国家では、「法の支配」により国家をガバナンスするのが一般的である。しかし、中国においては「法の支配」どころか、「法による統治」すら不十分であり、「司法」そして「法」の地位が高まらないのも合理性がある。この点、地方裁判所の政治的地位を過小評価する従来の海外(日本を含む)の中国研究に対して、中国の中国政治研究においては、「党」と「法」の順位付けに関して、かなり議論が盛んであった。もちろん、「党の指導」が存在する限り、「党」と「法」の高低比較は自己欺瞞でしかないが、「法」と「政」の関係は少なくとも表面上、習近平政権による「依法行政」そして「依法治国」の提唱により、「法」の上位性が承認されていると見られる。

このような現状に鑑みて、本論文では、地方裁判所の人事制度と人事決定の政治過程に生じた変化から、地方裁判所と地方政府との関係を明らかにすることによって、従来の研究と違う側面から、地方裁判所が地方政治というパワーゲームの中におけるアクターとして変化してきたことを証明することを試みた。そして、法社会学と制度論の手法を用いて、今までの中国政治研究では解明されてこなかったところの、中国を始めとした社会主義国家もしくは権威主義国家において、中央政府が如何に司法(特に地方裁判所人事制度)を運用することによって、中央の政策を徹底的に末端で執行させているのか、如何に地方政府を制御しているのか、という点を明らかにした。

言い換えると、本論文は、社会主義体制の中央政府の一つの例である中国共産党の中央指導者が、地方政府の実権を握る者を牽制する手段の一つとして、司法機関(本論文では特に地方裁判所を指す。中国語では「法院」)の人事制度を柔軟に時代に応じて改善し、運用しようと試行錯誤したことについて論ずるものである。